

不妊治療専門クリニックにおける患者会の役割検討

難波未来¹、小松原千暁¹、福田愛作¹、森本義晴²

医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック¹、医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック²

【目的】 当院看護部では 2009 年より個別相談室を開設すると共に、様々なテーマに添った患者会を実施している。長期不妊治療後妊娠出産のご夫婦、卵子提供や養子縁組を選択したご夫婦など当院卒業患者を講師とした企画等をおこなっている。このような患者会の役割と有用性について検討した。

【方法】 各会の満足度について、匿名性の保持と倫理的配慮をした無記名自記式質問用紙法のアンケート調査を実施した。患者会後に協力依頼書で回答を依頼し、回答提出で同意とみなした。

【結果と考察】 2018 年 2 月～2019 年 4 月までの 11 回、参加者は 109 名（うち男性 27 名）であった。女性の年代を見ると 29 歳以下の参加者はなく 40～44 歳が 32%と最も多かった。参加理由として「体験談を知りたかった」44%、「内容に興味があった」33%、「患者同士で話をしたかった」16%だった。患者会の満足度は「とても満足」84.7%、「少し満足」12.3%で、全参加者の 97%が満足という回答であった。妻の感想は「共感できるところがたくさんあって、気持ちが楽になりました。」「自分自身ではどうしたらいいかわからない気持ちを、みんなが持っていることが分かりました。」との肯定的な意見が多かった。夫の感想は「妻との気持ちの差を感じることは、自然なことだと考えられるようになりました。」「共感する部分があり、自分自身の考えを改めなければと感じました。」と夫婦間の気持ちの差を受容する機会になり、治療に取り組む姿勢を改善しようとする意欲が伺えた。

【結論】 通院患者の感情の表出の場として個別相談室を設け常時対応できる環境を提供しているが、今回の結果より、個別の場だけではなく、同じ悩みや思いを抱えている仲間と気持ちを共有し表出できる患者会は、客観的に自分自身を捉えられるだけでなく、集団での感情表出の場にもなっていることが明らかとなった。今後も、患者が希望するテーマを叶えられる患者会の定期的な開催を実施したい。